

箕面には

古い日本建築の素晴らしい民家が沢山在る

—— だんだん 減っている ——

みのお市民まちなみ会議のパネル展で、「蔵」、「長屋門」、「門冠松」、「虫籠窓」、「瓦」などの民家の美しい部分の写真を数年にわたり展示しました。みなさまもご記憶の方が多いと思います。これらは総じて古い民家に係わるものばかりです。「蔵」の在る家は、少なくとも昭和以降に建った家には無さそうです。

「長屋門」武家は萱野三平宅だけなので、殆どは大地主の農家で、長屋門は農具の収納場所や小作人の住まいでした。「門冠松」は江戸末期に始まり明治・大正に一般化した門に添えて黒松などを植えたものですが箕面に在るものは、成長具合から一部を除いて昭和期、殆どが戦後の建物に多い。「虫籠窓(むしこまど)」は旧集落を中心に可なり沢山残っています。江戸時代庶民の住居は、二階建てなどの建物は暮らしの中で敬遠さ



桜井(1)



小野原西(2)

れました。また西国街道筋では参勤交代の大名が往来するので、二階から行列を見下すことは許されなかったので、厳しく制限されました。従って少なくともこの建築様式で建てられた民家は、昭和初期以前のもものと推定されます。「瓦」主として鬼瓦など細工瓦は、淡路、菊間(愛媛)など産地が近いので、比較的新しい日本建築の建物に多く葺かれていますので、古い民家とは直結しません。(なを、阪神大震災以降、日本瓦は屋根が重くなるとの理由から減っています)

「古民家」と云う言葉が在ります。定義にどの時代に建てられたものか、あるいは建築後何年を経たものを指すのか定義はなく、通常は第2次世界大戦以前、特に大正以前のもものを指すことが多い。また、伝統的な日本建築で建てられたものを特定することが多い。(今枝会長の文章引用)

箕面には、古い民家または古民家が沢山残っています。特に西国街道、西国33ヶ所巡礼

道、箕面街道(瀧安寺参拝道)、楨丹街道(止々呂美)などの街道が通っている為、沿道に人々が住み集落が出来たと思われます。しかし、生活様式の変化などから取り壊されたり、改築されたりして古い民家の面影が消えつつあります。一方で歴史的景観の維持、地域の歴史の再認識、日本人のアイデンティティーなどの問題意識が、最近になって見直されつつあります。箕面に残る古い民家の写真を見ながら、考えてみましょう。



西小路(2)



粟生間谷東(1)



桜(4)



粟生新家(1)



粟生間谷西(6)

まちなみサロン

箕面市民まちなみ会議では、不定期ながらまちなみサロンを開催し、一般にも公開して、関心のある方の聴講参加をお誘いしております。講師は専門家や会員で、テーマも色彩や建物のはなし、街並みに関する映像、歴史から会員の特技、趣味の領域まで広範囲に及んでおります。

「陶芸に親しむ」Ⅰ,Ⅱ

大塚 淳(会員)講演

日本の陶磁器の発展と推移から話は始まった。日本人が土器を用いたのは、縄文、弥生時代に始まる。人々は土を焼いて、器を作り、煮炊きをする鍋などを作ったと考えられる。その後進化に伴い技術や美的意識も高まり埴輪まで作るようになった。

一方、工芸として陶芸に人々が関心を示したのは、大陸との交流が盛んとなった、唐時代以降で、皿や器に描かれた絵模様を美を感じたのだろう。他方、瀬戸、常滑(愛知)、越前(福井)、信楽(滋賀)、丹波(兵庫)、備前(岡山)などが、焼き物の産地として地位を確立して

来た。これらの地では、釉薬を使わず窯の温度、炎の当たりなどでの変化(窯変)に美を感じていた。

信長、秀吉により国家統一が図られると武将たちは、心の余裕が出来、茶の湯や様々な文化に目を向けるようになった。特に朝鮮出兵は、出陣した諸大名が、沢山の陶工を連れ帰り、各地で陶磁器作りを奨励した。その多くは白磁器で、釉薬で絵付けをして、美しい品々を生み出し、現在も続いている。有田、唐津、薩摩などが代表格で、柿右衛門の赤絵付けは有名な話です。

更に世の中が平穏となり、利休などの「詫び茶」の世界が広まると、茶碗、茶壺などが次々に世に出て、大名、大商人などが競って名品の収集を行った。

沢山の陶磁器の写真を映写しながら「日本の国宝」や黒田官兵衛を信長に面談させた、伊丹城主荒木村重が肌身離さず持っていた「高麗茶碗」など



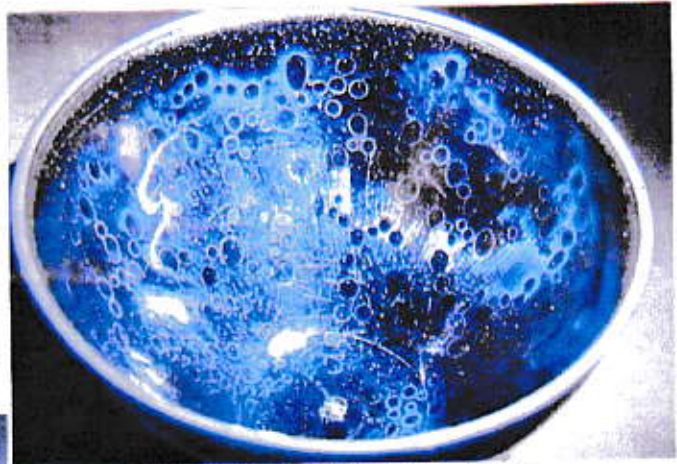
「唐草染付茶碗 銘荒木」(辰本高麗) 徳田美術館

国宝のやきもの(*和物)

油滴天目茶碗	南宋時代(東洋美術館)
曜変天目茶碗	南宋時代(藤田美術館)
曜変天目茶碗	南宋時代(大徳寺龍光院)
曜変天目茶碗	南宋時代(静嘉堂文庫美術館)
玳瑁蓋散花文 天目茶碗	南宋時代(承天閣美術館)
大井戸茶碗	李朝時代(大徳寺龍達庵)
志野茶碗*	桃山時代(三井記念美術館)
白楽茶碗*	江戸時代(サンリツ服部美術館)
色絵藤花文茶壺*	江戸時代(MOA美術館)
仁清色絵雉香炉*	江戸時代(石川県立美術館)
青磁下蕉花生	南宋時代(HaraMuseumARC 観海庵)
青磁鳳耳花生	南宋時代(久保惣記念美術館)
飛青磁花生	南宋時代(東洋陶磁美術館)
青白磁円硯	唐時代(道明寺天満宮宝物館)
白然袖秋草文壺*	平安時代(東京国立博物館)

戦国武将が愛した名品や、「利休七哲」(蒲生氏郷、高山右近、細川忠興、芝山監物、瀬田僧門、牧村兵部、古田織部)や「千・三宗家」の略系図などの話を交えながら、陶芸が茶の湯と大きく関わったことを説明された。

そしてこの陶芸が、現代まで延々と世襲され多くの「人間国宝」が作る品々を紹介され、陶芸が私達の身近に親しめることを感じさせ、講演を締めくくられた。(文責:大町凱彦)



国宝:曜変天目茶碗(南宋時代)



人間国宝:10代三輪休雪(萩焼)



人間国宝:14代酒井田柿右衛門(色絵磁器)

数年ぶりの雪化粧

雪景色アラカルト

春分も過ぎた2月14日日本列島は大雪に襲われた。滅多に降らない箕面でも、全市域にわたり朝から昼ごろまで降雪に見舞われた。箕面の美しい街並みを、春夏秋冬各シーズン毎に写真を撮っていたが、冬期はなかなか季節感が出なく、悩んでいたのが絶好のチャンスと、各街角で撮りまくった。光の具合とか撮影の角度とか考えていたら、雪が止むとたちまち消えることを恐れて、とにかく走り回って撮った。



新稲5の大黒さん



稲3 中央線新千里橋より



牧落5 サンロイヤルの花壇



白島3 五藤池よりとんど山方向を望む



西小路 5 市役所より平和台方向を



箕面 2 邸宅の門



彩都粟生南 4 マンションの前で



牧落 5 地藏さんにも雪



新稲 2 中池公園より大阪青山大を



桜ヶ丘 2 大正住宅泊の建物

(大町凱彦)